

不二健育会 特別養護老人ホーム ケアポート板橋

蓮沼 美歩 (職種 / 介護支援専門員 / 所属部署 居宅)

功 績 他包括より要介護となった為、ケアプラン作成依頼があり、令和4年12月より関わり始める。認知機能低下や被害妄想が強く、介護サービスの介入ができない状況であった。また、関係性構築が困難な状況であり、遠方に姪などの親戚はいるが関りはほとんどなく身寄り無しの状況。このような状況の中でも「このまま自宅で過ごしたい。」とご本人の強い意思があった。

区内総合病院への通院へ同席。医療情報入手し、なんとか訪問介護へ繋げ、医師・看護師・包括を支援チームに加えることができる。ご本人に寄り添った結果、事業所にかけてくる電話の頻度も低下し、安心してご本人の意向通り在宅生活が継続できる様になった功績。

推 薦 者 滝本淳 (居宅 / 管理者)

推 薦 理 由 当初は、認知機能低下・被害妄想が強く信頼関係構築及び介護サービス導入が困難な状況で、在宅生活継続に不安があった。介護支援専門員の専門性を活かし、ご本人に寄り添った支援ができた。ケアマネジメント力・調整力・プレゼン力は職員の見本になることも多い。

その結果、医師を含む支援チームを拡大し、ご本人の仲間を増やすことで、「住み慣れた地域で不便を感じずに自分らしく過ごしている。」状況を作り出すことができた為、推薦させていただきます。

内 容

令和4年12月に他包括からのプラン作成依頼があり関り始める。アルツハイマー型認知症による認知機能低下・被害妄想が強く、ご兄弟やご親戚とのトラブルに加え、近隣住人にも被害妄想があり、支援介入困難な状況。在宅生活の継続が危ぶまれていた。

このような状況であっても蓮沼はご利用者に寄り添い、如何に信頼関係構築ができるかに注力し、まず総合病院までの通院に同行。医師と連携を図ることから始めた。医師との連携の中で、在宅生活の状況を的確に医師に伝える事ができ、医師からの信頼及び、ご本人からも受け入れ始める。

訪問を重ねることで徐々に関係性も構築され、受け入れられなかった介護サービスの介入へも心を開いていった。

サービス事業所の選定については、ご本人の症状にあった事業所をネットワークを駆使し選定。認知症や被害妄想がある方への支援が強いヘルパーステーション、また認知症に特化した訪問看護を選定するなど、蓮沼のケアマネジメント力・調整力を活かしたプランニングができた。

介護サービスが介入する際も、ご本人が不安にならないよう初回は必ず同席する等の対応をしたことで、スムーズに介護サービスが介入が実現できている。

以前は、ご本人から不安を訴える電話連絡が頻回にあったものの、現在は不安を訴える連絡は殆どなくなっている。ご本人の意向である「このまま自宅で過ごしたい。」が、蓮沼による支援力とマネジメント力にて、安心と親身な対応を実践することができた。